

# 自治大職員の声

自治大学校研究部長（併任）教授 見次 正樹

編集者注：本稿は、自治大学校における演習・講義の特長などについて、自治大学校の職員が記したものです。

## 1. はじめに

自治大学校は、地方公務員の方々を対象とした国の研修機関ですが、ほかにも、アジア、アフリカなどの諸外国で地方行政に携わる公務員の方々を対象として、国際協力機構（JICA）と共同で行う地方自治研修を実施しており、私は、講義の実施など関連する業務に携わっています。

また、自治大学校が実施する研修のうち、主に都道府県の職員を対象とした第1部課程や主に市町村の職員を対象とした第2部課程においては、特定の政策課題をテーマに、課題解決のための具体的な政策をグループごとに立案する「政策立案演習」を実施しており、関連する業務に携わらせていただいています。

## 2. 政策立案演習に関する所感

### （1）演習の概要

政策立案演習は、上述のとおり、特定の政策課題をテーマに、課題解決のための具体的な政策をグループごとに立案するものであり、データ分析演習など他の演習科目の総括として行うものですので、自治大の各種演習において中心的な存在に位置付けることができます。

演習の大まかな流れは、①最初に、立案の対象とする特定の政策課題（テーマ）を少人数のグループごとに設定し、②その後、経験豊富で高い識見をお持ちの外部の先生方からの御指導を仰ぎつつ、情報収集・報告書の作成を行い、③最後に発表会でプレゼンテーションを実施するというものです。報告書につ

いては、概ね、①テーマに関する現状分析に始まり、②行政上の課題を抽出した上で、③条例の制定・改正や事業の実施などの政策提言を行い、④さらに、政策効果の分析等を行うという流れがよく見られるところです。

### （2）所感

#### ①「裏付け」の重要性

こうした一連の流れにおいて、指導を行う側において意識することの一つは、現状分析や効果分析で提示する内容について、ファクト・データによる裏付けが取れているかということです。昨今、「証拠に基づく政策立案（EBPM）」が言われていますし、難易度の高い分析手法を用いているか否かにかかわらず、各議論について根拠が示されているかという点については、注意を払うよう常に心がけています。

#### ②チームワークの醍醐味

このような政策立案演習においては、様々な個性・専門性を持った研修生の方々が、共同して報告書を練り上げていくこととなります。

政策立案演習においては、他の演習や講義で学んだ知識を活用することが一つの重要な要素となりますが、そのことのみならず、様々な個性・専門性を持った研修生の方々が、いかに効果的・効率的に役割を分担して前進していくかというチームワークも、重要な要素となってきます。

例えば、法律の知識が豊富な方、データ分析など数字を駆使することが得意な方、それら双方の要素を持ち合わせている方、実地調査でのヒアリングで先方の話を引き出すこと

に優れている方、プレゼンテーションが得意な方。あるいは、取り上げたテーマについて業務で担当したことがあり、詳しい知識を有している方、業務で担当したことはないけれど、別の視点を当該テーマに吹き込むことができる方なども考えられます。

全国から集まった研修生の方々が個性・専門性をぶつけ合いながら、一つの報告書を練り上げていく様には、自治大の研修の醍醐味を感じるところです。

### ③演習（研修）の効果の発揮

完成した報告書については、発表会の場でグループごとにプレゼンテーションを行うこととなりますが、プレゼンを終えた研修生の方々の思いは、様々であるかと思えます。検討できることは全てやり尽くしたという充実感に満ち溢れた方、何とか期限内にまとめ上げて胸を撫で下ろしている方、現状分析は十分できたものの政策の具体性に迫力が欠けたと悔しがる方など。

何をもって政策立案演習の成功と捉えるかについては、中々難しいところですが、私個人としては、報告書の発表会に向けて学んだり、議論したりしたプロセスの中で得た知識、経験を研修生の方々が帰任後の本務で活かすことができれば、翻って演習は成功だったといえるのではないかと思います。

また、政策立案演習で得た知識がある特定のプロジェクトに直接役立つことがあれば、それは素晴らしいことですが、演習で得たことを活かす機会は、そうした直接的な側面に限られないと思います。研修の成果は、仕事の進め方・分担の在り方、意思決定過程における複数の選択肢の検討の在り方など、平素の業務遂行の中にこそ宿るものなのかもしれません。

## 3. むすび

とりとめのないことを書いてきてしまいましたが、各地の地方公務員の方々と接する機会が多いここ自治大に着任して強く思いますのは、外交・防衛・マクロ経済政策といった国家事務が日本という国を支えている大きな要素であることは間違いないと思いつつも、やはり、全国各地の優秀かつ個性的な地方公務員の方々が、それぞれの持ち場で汗をかき、工夫を凝らし、住民の方々と向き合いながら行政を回していくことが、この国を支える大きな力になっているということです。

そうした思いは、国は違いますが、諸外国から自治大に來られ、限られた期間の中で懸命に学ばれている研修生の方々の熱心な姿勢に接した際にも、同様に感ずるところです。

国内であれ、国外であれ、国を支える大きな力になっている方々を研修生として受け入れている自治大としては、そうした方々の貴重な時間を頂戴する以上、その付託に応えるため、研修内容の向上に向けて不断の見直しを加えていかなければなりませんし、私も微力ながら、そのような取組の一端を担えればと考えています。

最後になりますが、自治大で学ばれた皆様の各地方公共団体・各国でのご活躍を祈念するとともに、これから学ばれる皆様をお迎えできることを楽しみにして、筆を置きたいと思えます。